

市長の窓

しげ のぶ
滋宣の



ほう ちゅう かん

あん ちゅう めい

“忙中閑あり暗中明あり”

その 35

～ 風 鈴 ～

夏の夕方など、軒につるした風鈴のチリンチリンという澄んだ音に涼しさを感じ、一時暑さを忘れさせてくれます。

風鈴のルーツは、古代中国の寺で堂塔の四隅に魔よけのために取り付けられた、青銅製や鉄製の「風鐸^{ふうたく}」が原型です。日本では鎌倉時代から室町時代にかけて今のような風鈴として、最初は貴族の間で、やがて庶民へと広まってきました。

江戸時代には、吹きガラスに色柄を付けた彩りも楽しい江戸風鈴が人気で、たくさんの風鈴をつるし、街中をにぎやかな音を立てながら売り歩く風鈴売りが、夏の風物詩となりました。

ガラス製のものは見た目にも涼しげですし、鉄製の南部風鈴などは、重厚^{おもむき}な趣の中に軽やかな音色で楽しませてくれます。

風鈴を窓辺にでもつるし、風鈴の音に耳を傾ける、そんな時間を持てたら熱帯夜も何とかしのげそうです。

鉄壁の ころろの隙に 風鈴なる
(かとう しゅうそん
加藤楸郎)

能代市長 齊 藤 滋 宣



7月15日、のしろみなと祭りのオープニングセレモニーで、園児たちと一緒に踊りました。